

1 - 7 留萌沖の海底地形

Submarine Topography off Rumoi

海上保安庁水路部

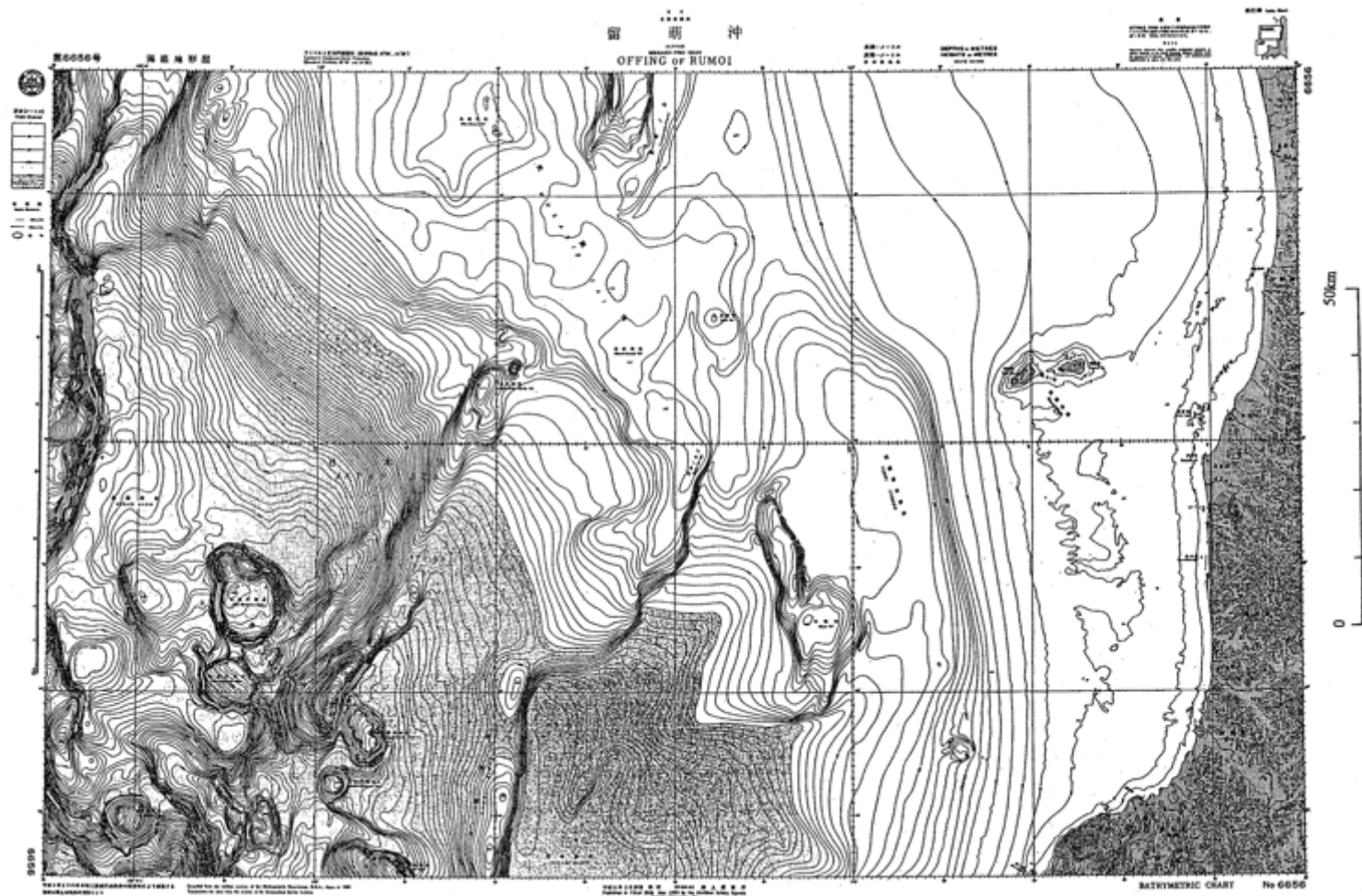
Hydrographic Department, Japan Coast Guard

海底地形図「留萌沖」(第1図)は、留萌沖の大陸棚から奥尻海嶺に至る区域を包含している。幅広い大陸棚の沖には大陸境界地が拡がり、海盆・堆・海丘等が分布し、西縁には忍路海山をのせる奥尻海嶺北部が南北にのびている。この図の作成のために使用したデータは、沿岸の海の基本図(縮尺 1/5 万)、旧大陸棚の海の基本図(縮尺 1/20 万)及び平成 8 年度、9 年度で得たマルチビーム測深機のシービーム 2000 のデータである。北部では 80m 以浅、南部では 200m 以浅を除き、シービーム 2000 のデータから作成した。平成 8 年度、9 年度の測線間隔は経度で 1 分から 2 分の測深を行い、500m 以浅の区域を除いてほとんど未測部分のない資料を得ている。

図の西縁の奥尻海嶺北部と武蔵海盆の境界は、連続する北東 - 南西から北西 - 南東方向のリニアメントにより形成されている。このリニアメントの北端部に向かい合うように北東 - 南西方向のリニアメントがあり、この間は地溝状の凹地になっている。北積丹海丘西方の比高約 200m 高まりの海丘西側、西積丹海丘と南側の凹地との境界、その南方の西北西にのびる高まりと小規模な平坦面との境界には北北西 - 南南東から西北西 - 東南東方向のリニアメントが認められる。これらの南東方の頂部水深 740m 海丘や神威海丘の基部に南北、西北西 - 東南東方向のリニアメントが存在する。

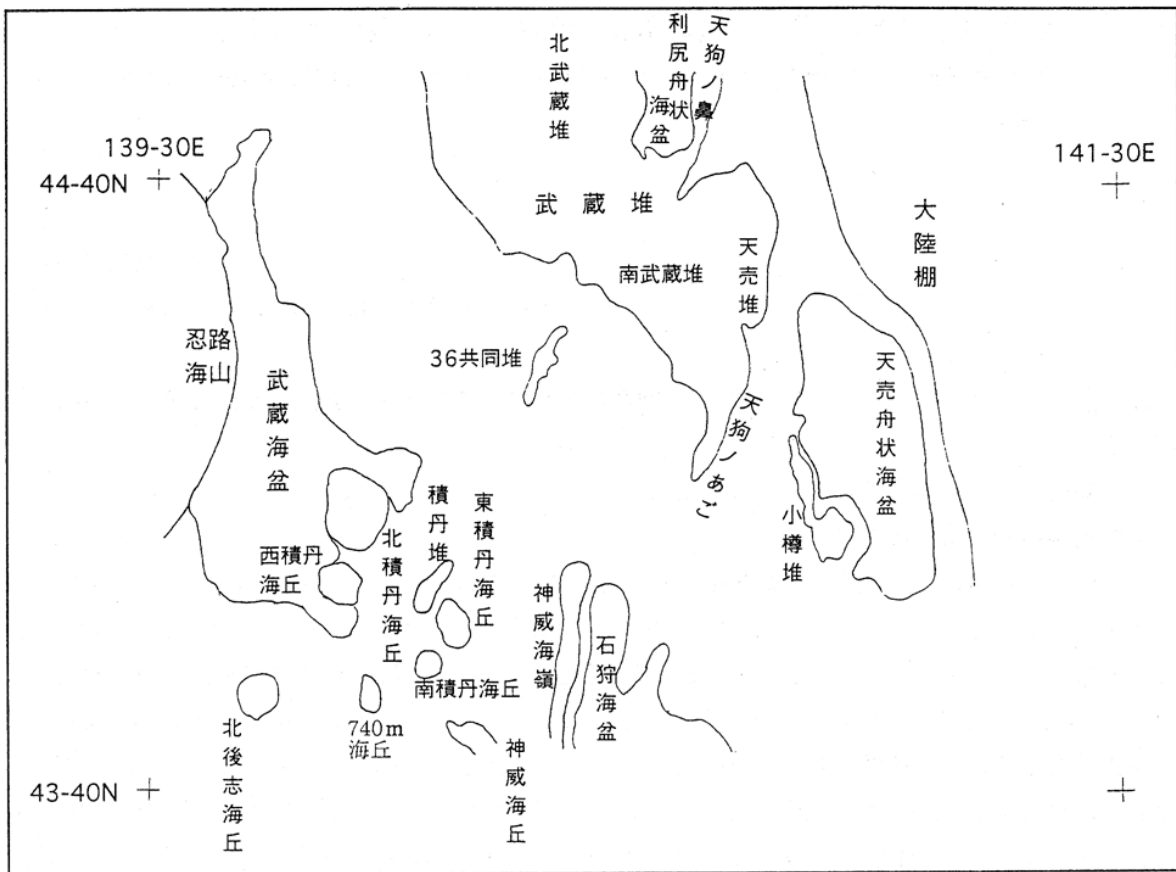
北端に位置する利尻舟状海盆は東西の北北東 - 南南西方向のリニアメントにより地溝状の凹地になっている。武蔵堆を挟んで利尻舟状海盆の南西方向に位置する第 36 共同堆と西側の緩斜面との境界、この南方で南北方向の斜面と南西に傾く緩斜面との境界は北北東 - 南南西方向のリニアメントにより形成されている。

神威海嶺と石狩海盆との間には南北方向にリニアメントがのび、両者の境界になっている。武蔵堆南端の天狗ノあご東側にはリニアメントが北北東 - 南南西方向にのび、南に傾斜する石狩海盆に下る斜面との境界になっている。石狩海盆内の比高約 100m 高まりの南東側には北東 - 南西方向のリニアメントが認められる。石狩海盆の北東に位置する小樽堆では細長く北北西方向につきだした小樽堆北部が、北北西 - 南南東方向のリニアメントにより天売舟状海盆と境されている。



第 1 図 留萌沖の海底地形図。等深線間隔は 20m。

Fig.1 Batymetric chart off Rumoi.



第2図 留萌沖の海底地名。

Fig.2 Names of submarine topography off Rumoi.